様式２

輸出事業計画
※申請者名：東町漁業協同組合、品目：養殖ブリ

１．輸出における現状と課題

【現状】
東町漁業協同組合（東町漁協）における養殖ブリの輸出は、昭和57年に対米輸出を全国に先がけて行った。その後さまざまな条件をクリアしながら、これまでに31の国と地域へ輸出し、令和元年の実績は20億9千万円である（令和２年については、COVID-19の影響があり約7億円である）。

しかし現在ではロイン加工した冷凍品や高鮮度の生鮮品等へとクライアントの要求も変化している。さらに国の水産物輸出拡大に向けた目標に対し、現状の北米向け冷凍ブリは頭打ちの状態に近づいていると思われる。日本食レストランなどの外食産業での需要に限りが見え始め、今後の販路として量販店へのアプローチが必要と考えられる。

【課題】
・ラウンドからフィレ、ロイン加工品へのニーズが変化
・冷凍品と高鮮度の生鮮品へのニーズが増加
・北米での冷凍ブリは頭打ち状態
・中国はじめアジア、東南アジアへの拡大が期待されるも、COVID-19による規模縮小
・周年、高鮮度生鮮品が輸出できる生産体制の確立が必要
・サーモン、ヒラマサ等競合する魚種に対抗できる品質と価格および品揃えの確立が必要

２．輸出事業計画の取組内容

生産現場においては、海外における安定的なサイズでの周年出荷を可能にするアイテムとして人工種苗の導入を促進する。また、SDGsに示された国際社会との連携、持続可能な養殖生産に取り組む。国際認証のASC認証やMEL認証（養殖生産・加工流通）を活かし、日本の安全・安心・安定したブリを世界中で食べてもらうため、生産者と協力して日々研鑽に努める。

現加工場では既にキャパシティ不足のため、新加工場の建設を早期に行う。製造スピードをアップさせることで製品の出庫時間を短縮し、外国便が多い関西空港の利用を可能とする。
国際認証でもあるISO22000の運用をさらに浸透させ、世界基準への対応に漁協全体で取り組んでいく。

【取組の一覧】
(1)輸出産地づくり（生産の面）
人工種苗の安定供給・・・輸出向け生産を確立し、人工種苗の強みを生かした安定供給
オリジナル飼料の改良・・・飼料検討委員会での提案、試験的な仕上げ飼料の開発、試験
最先端加工場の建設・・・新加工場建設企画・計画・設計・工事管理を段階的に進め、2025年度竣工予定
ISO22000の運用・・・食品ハザード分析を定期的に行い、ISO22000を着実に運用

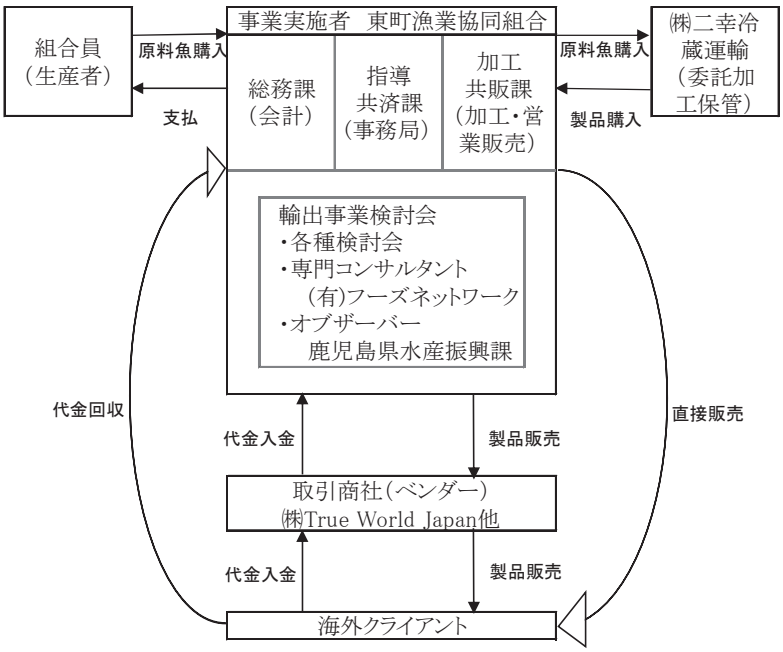
(2)販路の開拓（流通・販売の面）
ベンダーとの情報共有・・・COVID-19の影響で失った販路回復と、ベンダーとの連携のもと販路開拓
産地間での情報収集・商品開発・・・市場ニーズを把握し、スピーディな対応、提案
直接取引への取組・・・商談会などの機会を活かし、強みを身につける
展示会への出展・・・国際的な商談会への参加・出展

様式２

輸出事業計画
※申請者名：東町漁業協同組合、品目：養殖ブリ

３．輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

PDCAについては、専門のコンサル、必要に応じてオブザーバーを入れた「輸出事業検討会」を核に、各種取り組み毎に定期的な報告を行い、実行の内容の検証および改善点の検討を行う。これらの結果を基として、輸出事業計画にかかる各取組の見直し・実践をおこなう。



P　取り組み内容毎に出された計画の内容を集約し、専門コンサルタント、オブザーバーを入れた輸出事業検討会で審議し、輸出事業計画として策定する。

D　輸出事業の実行
それぞれの取り組み毎に計画を実行し、定期的に輸出事業検討会において実績の報告を行う。

C　輸出事業検討会において、専門コンサルタント、オブザーバーの意見を反映させ、実行の内容を客観的に評価する。

A　輸出事業検討会の評価を受け、それぞれの取り組みごとに内容の改善点について検討し、計画の見直しを行う。

４．輸出目標額

【輸出品目】　東町漁協産　養殖ブリ
【輸出先国】　北米、EU・イギリス等　、中国、東南アジア、中東
【輸出目標】　現状：令和２年度　　440トン　　697,000千円
　　目標：令和６年度　1,400トン　2,200,000千円